



岳南朝日新聞社  
〒418-0033  
富士宮市野中東町46-1

# 高校生の視点でアイデア考え

## 富士宮 高校会議所 認知症のひととのコラボ

富士宮高校会議所(杉山葉奈会頭)は3月30日、富士宮市西町の西町レトロ館で地域活性化探究活動として、地域の企業家や職人などを招き座談会を開いた。若年性認知症などの人の仕事場「木工房いつでもゆめを」の稲葉修店長との座談会では「認知症の方々のコラボ活動について、高校生の視点から」をテーマに、製品開発について意見を交わした。



稲葉店長を囲むメンバー

「いつでもゆめを」は、(株)INBが設立し、認知症などの人たちが従業員として木製おもちゃのほか、人気の木でできた車いす体重計や魚釣りゲームなどを

製作し、営業活動を行う事業所。稲葉店長は「atelier QOKKA」などが描く動物などの素晴らしい絵画と廃材を使い演奏したら楽しそう」などと語りかけ、高校生にアイデアを募った。



講話する稲葉店長

高校生からは「箱を組み合わせてスマホなどの音量を上げる製品」「スマホスタンドはどつか」などの案が寄せられた。

今後、両者が情報交換しながらコラボした製品開発に取り組みたいと話した。

このほか、TRY Mの坂下康博代表取締役と朝霧高原の活性化

について、富士の菓子屋 用したスイーツ作成の 如藤太郎の後藤健製造 可能性について意見を 部長とひまわり油を活 交わした。